

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100191		
法人名	株式会社 かいせい		
事業所名	グループホーム かいせい		
所在地	北九州市門司区錦町4番26号		
自己評価作成日	令和7年9月17日	評価結果確定日	令和7年10月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキ+enterで改行出来ます)

家訓である「やさしく、たのしく、あたたかく」を目指し、利用者のこうありたいを基本方針とし、日々介護に取り組んでいる。気候が良い時期には、屋上で体操をしたり、桜の季節には和布川公園までお花見に行ったり、バラの季節には、井筒屋のバラ展や、三井倶楽部にバラを見に行ったり、できる限り、人とのふれあいや外気に触れる機会を持てるように工夫している。少しの時間を利用して、散歩に行ったり、閉じ込められた環境にならないように心がけている。町内の清掃活動に参加したり、近隣の幼稚園との交流も行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年10月7日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には一般住宅が建ち並び、医療機関、スーパーマーケット、ドラッグストア、商店街等が周囲にある地域に根差した地域に「グループホーム かいせい」は建っている。鉄筋コンクリート造りの頑丈な造りであり、フラットルーフであるため屋上へ上がって、花火大会を観ることもできる景色の良い事業所である。ケアの面では、看取り介護を積極的に実施している。協力医をはじめ職員が一丸となって看取り介護に取り組んでいる。長年住み慣れた事業所で最期を迎えたいとの利用者及び利用者家族の要望に応えようとしている様子が見える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自	外	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、運営推進会議へ参加いただいたり、ボランティアの方のご支援をいただいている。体操時などに家訓を言い、スタッフ、利用者様と共有している。	運営方針と行動方針を職員の休憩室とエレベーター内に掲示している。事業所内で家訓の読み合わせをしている。職員にも周知をして必要時に説明をするようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加している。また、近隣の幼稚園と七夕やクリスマス会、入園式や卒園式などに参加して交流をもつ機会を作っている。	年に数回は地域の清掃活動があるため参加をしている。利用者家族にも声をかけると参加される方もいる。近隣の幼稚園の入園式や卒園式に参加をしたり、幼稚園で花祭りがあった際には、花を持ってきてくれたり等交流がある。毎年開催される地域の祭りの時には、しゃぎり隊が来て利用者も一緒にしゃもじを持って踊っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の理美容なども利用していたが、高齢のためお店を閉められたりして、思うように触れ合うことが少なくなっている。5月にあった港まつりでは施設前で踊って頂き、入所者も一緒に踊ったりし、地域の方と交流が持てた。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方やご家族の方にも、毎回参加していただき、かいせいの状態を理解していただいている。	法人代表者、利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員が参加している。2か月に1回開催し、月1回広報誌を送付する際に運営推進会議の開催の案内を渡している。会議の際には、介護事故報告や苦情報告、地域との交流や利用者について等項目に添って会議運営している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発送する広報誌などで、かいせいの今を知っていただく努力をしている。	毎月作成している広報誌(「ある日ある時」)は市町村に郵送し、事業所の空床情報も市町村に報告している。介護事故があった際には、必要に応じて市町村に報告をしている。おむつ給付の対象の利用者については申請代行もしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みの委員会を3か月ごとに開催し、スタッフ会議で検証している。また、外部研修をうけスタッフ会議で伝達している。	身体拘束を実施している利用者はいない。離床センサーを利用している利用者が数名いるが利用に際しては、その必要性を家族に口頭で説明をして了承を得る様にしている。「身体拘束廃止に関する指針」を作成している。外部研修にも参加している。

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6月に外部研修を受け、スタッフ会議にて伝達研修を行った。自身の介護を振り返る機会となり、家訓の意味、実践する難しさを再確認できた。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修を受け、伝達研修を行った。難しい内容であり、すべての内容を職員全員が十分に理解するまでには至っておらず課題である。	権利擁護に関する外部研修に参加して、参加していない職員に対して伝達研修を実施している。研修報告書や資料を回覧して研修を実施したり、月に1回実施している全体会議の際にも研修内容を共有するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より、パンフレットの提示、料金表などを説明している。入居時には標準契約書・重要事項説明書にて説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、投稿はほとんどない。面会、電話連絡時や、運営推進会議の時に意見や相談を聞く声掛けを行っている。外出の希望などにはできる限り対応するようにしている。	家族と一緒に外出したいとの希望があったため、感染症に配慮しつつも、外出可能な対応にしている。家族の希望に極力添い、利用者と家族との関係継続を大切にしていきたいとの思いを持っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議では全体の課題、フロア会議では各フロアの課題に取り組み、意見交換している。会議以外でも随時スタッフからリーダーに意見が言いやすい環境ができてきている。	毎月の全体会議やフロア会議の際に、職員からの意見を聴く場面もあるが、特に運営に関しての意見は挙がってきてはいない。法人代表者が夏と冬の年2回職員面談を実施して意見を吸い上げる様にしてきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートを含め職員一人ひとりの事情に合わせた働き方に対応し、なるべく職員の勤務希望に沿うよう努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時には、年齢、性別などに関わらず、選考を行っている。シフトも偏りがなく工夫し、それぞれの力が発揮できるよう協力している。	採用については、法人代表者だけではなく管理者も入ることがある。年齢や性別、経験だけに捉われないような採用をしている。20歳代から70歳代の職員が勤務している。レクリエーションが得意な職員がいるため、利用者と一緒に楽しく過ごす時間を持っている。利用者と一緒に球根を植えて花を育てている。	

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者、職員同士の声掛けに配慮し、お互いを大事にする対応を心掛けている。人権研修を実施している。	不適切ケア、同和問題等の内容の外部研修(動画視聴)を実施して、研修後にはアンケートを記載している。職員主体の人権研修も実施している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はスタッフ個々に必要な研修を受講できるよう工夫している。偏りがないよう受講できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	zoomでの研修が主流となっており、交流はあまりできていない。時折、集合研修があるときは参加し、交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ケアマネジャー、MSWからの相談を受け、入所の意思を確認し、初回アセスメント時に問題の把握に務めている。関係機関から医療情報、生活歴、薬の情報など得て、かいせいで生活がスムーズに始められるように取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談時に、かいせいのパンフレットに基づき、丁寧にかいせいで生活を説明し、不安の聞き取り、説明を行い、入所後ご家族が安心できるように、スタッフ一人一人が、計画書に基づき業務を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期において、本人、ご家族の不安や混乱が最小限になるように、アセスメントを行い、把握した情報を元に作成した計画書を各スタッフが理解し、具体的な介護に取り組めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの生活の中で、出来ること、出来ないことを把握しながら、生活の場面場面で、本人の持てる力を発揮できるよう小さな家事(洗濯干し、洗濯たたみ、モップかけ、お盆拭き)など取り組んでいる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書の発送時、共に発送する広報誌に、その月のご様子を報告している。運営推進会議時に参加されたご家族には意見や相談をする声掛けをしている。		

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い立地条件から、訪問者も多い。高校時代の同級生の訪問もあり、一緒に外出をされる方もいる。これからも関係を続けていけるよう支援していきたい。	面会は事前予約制で居室面会をしてもらっている。家族と一緒に外出する機会がある利用者もいる。家族以外にも同級生の面会があったり、近所の方が面会に来る等、今までの馴染みの関係が継続できるようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解し、トラブルにならないよう工夫している。認知症の特性を利用者に理解していただく事は難しく、席の配置を工夫したり、トラブルを未然に防ぐように対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かいせい退去後は、今後の相談に乗ったり、必要な支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知機能やADLに個性があり、なかなか意向が確認できない方もいるが、ケアごとに表情を読み取り、必要な援助ができるように工夫している。	本人に意向を直接お聞きすることもあれば、家族に意向の確認をすることもある。利用者とのコミュニケーションを図る際の表情や言動にも注意している。朝ご飯はパンがどうしても食べたい、ご飯の際には明太子が食べたい等の、本人の好みに合わせる様にしている。足を温めて欲しい等の希望にも可能な限り添うようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや趣味、習慣などがかいせいで生活でも継続できるように工夫している、		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務に入る前に申し送りをを行い、入所者の状態を把握してから勤務に入るようにしている。また、施設内で行うレクリエーションに参加していただく事で、日々の生活に変化を持てるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の情報や伝達事項は日誌に記録し、フロアを超えて職員全体が共有できるようにしている。利用者の変化は、介護記録や申し送りでも共有している。ほのぼののシステムによる記録を導入していることで全体の把握がしやすくなったと思う。毎月のスタッフ会議で、各利用者の問題点について協議し、介護やケアプランに反映させている。	ケアプランの作成やモニタリングの作成は各ユニットの計画作成担当者が実施している。日々の記録は看介護職が実施している。ケアプランの更新の際などは日々の業務の中で情報共有をしたり、各フロア会議の際に情報共有をしている。	

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔状況、排泄、バイタルチェックなどあらゆる視点から、記録、申し送りをし、状況を共有している。必要時には話し合いを持ち、プランに反映させている。紙ベースの記録を最小限にし、ほのぼののシステムでの記録を導入している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々発せられる入所者の一言に、耳を傾け反応できる職員の感性を大切にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園児との交流は、恒例行事となっており、花の日、敬老会、クリスマス会に訪問したり、来て頂いたりとの交流が継続している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医の往診をお願いしているが、在宅時からのかかりつけ医に継続して診察の意向があれば、ご家族にご協力を頂いたり、職員が付き添い受診を行いながら、治療が滞らないようにしている。	在宅生活の際にかかっていた主治医に引き続き診てもらうことも可能である。他科受診の際には通院介助や送迎も含めて家族に対応していただいていることもあれば、事業所職員が対応することもある。受診時の際には利用者家族に対して受診の報告をこまめにしているようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録、申し送りなどで必要な連携がとれるようにしている。協力医へ毎週水曜日に入所者の状況を報告し、必要な連携がとれるようにしている。訪問看護、訪問リハとの連携も十分にとるように心掛けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを看護師より提出し、必要な情報を提供している。退院時には、MSWと連携をとり、退院後の生活が滞りなく送れるように、入院中の情報をいただくようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、契約書と共に、重度化の指針、看取りなども説明、同意を得ている。状況の変化時には、担当者会議を開催し、意向の確認をしている。ご家族が往診に立ち会える場合は立ち会っていただき、今後の方針について話し合えるようにしている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応方針」「看取りに関する指針」の説明をして「看取りに関する指針への同意書」をもらうようにしている。実際に看取りになった際には、医師から家族に病状などの説明をしていただき、事業所でも対応可能な範囲で看取り対応をしている。ここ1年間でも3名の看取りを実施している。終末期医療の外部研修にも参加をしている。	

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、だれでも同じ対応ができるようマニュアルは準備しているが、実践となると不安はある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的な訓練を行っている。火災に関しては年2回実施している。避難誘導一覧表を作成し、各フロアに掲示、各入所者のドアに掲示し、どのような誘導が必要かわかるようにしている。地域住民は高齢化が進み協力は得られていない。	火災、地震、水害、土砂災害、津波の災害マニュアルを作成し、定期的な訓練を実施している。火災訓練は年2回実施し、夜間想定訓練は年1回実施している。利用者の身体状態が分かるように色違いのシールを貼って把握しやすいようにしている。同一敷地内の居宅介護支援事業所の職員との連携も図るようにしている。消防署や消防設備業者にも立ち合いをお願いし、水消火器を使用した訓練も実施している。	火災以外の地震や風水害等の訓練も実施してはどうだろうか。避難訓練以外にも、通報訓練等の机上訓練も実施してはどうだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は一人ずつ行い、プライバシーに配慮している。他者にとって耳障りな声掛けが何気なく発せられていないか、職員同士が注意するようにし、人格を尊厳する支援に務めている。	排泄介助の際に、排泄の有無を他利用者に聞こえないように気をつけたり、利用者に対しての声掛け内容について、適切であったかどうか職員同士で確認するようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや、行事などの参加は意向の確認をしている。無理強いはいないようにしている。また、日々の生活でも個別の楽しみが持てるように工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、外出など個別の希望に沿うように対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えは職員やご家族によって行われている。持参された化粧道具も使用させている。訪問理容も計画的に行われている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持てる力により、お盆拭きなどを行ってもらっている。朝ごはんはパン食を好まれる方にはパン食を準備している。お彼岸にはおはぎを作ったり、七夕やこいのぼりレクなどは、ホイップクリームで簡単に飾りをつけてもらったり、楽しい時間になるように工夫している。	食事は3食調理されたものを職員が温めて提供している。ご飯と汁物は職員が調理している。利用者の嚥下や咀嚼機能に合わせて食形態を工夫するようにしている。行事の際にクレープ、おはぎ、お菓子を作ったりして、利用者に提供することもある。利用者の好みによって、パンや明太子を提供するなど、可能な限り好みに対応している。	

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用しバランスの良い食事を提供している。食事量、水分摂取量を記録し、体重も1か月に2回測定している。嚥下状態にも注意し、食事形態の変更にも柔軟に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄保管、ケア用品も不潔にならないようにしている。利用者の状態に応じたケア用品を利用している。歯科医の訪問もあり、口腔内の指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。オムツ使用の方もサイズや種類などその方にあった物を選ぶようにしている。尿路感染症や膀胱炎にも注意し、尿量、色、尿臭などの観察を行っている。	定期的なトイレ誘導をしているが、利用者の排泄間隔を観察して、利用者の排泄のタイミングを見て介助するようにしている。利用者の排尿パターンに合わせて適切なおむつを選定して対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄物の有無、形状を把握している。便秘傾向の場合は、医師へ報告、相談し、下剤の調整を行っている。また、薬だけでなく、腸に良い飲み物を提供するなど工夫をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に2人介助やシャワー浴にも対応している。失便などの汚染時には適宜対応し清潔でいられるようにしている。しょうぶ湯やゆず湯など、季節の湯を楽しんでいただけるようにしている。	入浴は週2回から3回実施している。季節に応じてしょうぶ湯、ゆず湯等を提供して、季節感を味わってもらうようにしている。本人の好みの洗顔フォームや洗身タオル、化粧水等を利用している方もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングで、休息ができるようにしている。室温湿度、採光に配慮し、室内環境を整えている。リネン交換の記録をすることにより、定期的に清潔なものに交換できている。汚染時はその都度交換している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の管理の下、配薬が行われている。処方の変更や内服薬の形態にも柔軟に対応している。介助時には名前、日付、時間の確認を行い、誤薬も減ってきている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者のできることに、取り組みたいことに取り組める機会を作っている。自発的な発言が得られないが、編み物をしたり、塗り絵をしたり、個別対応も取り入れている。		

R7.10自己・外部評価表(事業所名 グループホーム かいせい)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数で三井クラブや井筒屋のバラ展に出かけたり、和布刈公園にドライブに行き散歩をしたりしている。小さな時間を見落とさず、屋上での気分転換を図るように工夫している。	気候が良い時期は、事業所の周辺や屋上に散歩に行ったり、近くの公園に桜やヒガンバナを見に行くなど、外出する時間を持つようにしている。家族や友人と外出をする利用者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として管理している。またお財布を持たれている方は、事務所で管理し、外出後は一緒に残金を確認するようにしている。スタッフと一緒に買い物へ出かけ、希望の物を自分のお財布から購入している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取り次ぎ、また折り返しもしている。携帯電話を持たれている方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーの壁面構成は、スタッフや入所者と共に折り紙などを作成し、季節感を楽しんでいる。空調や臭いなどにも気を配り、明るく清潔な環境作りにも考慮している。	共用部分には、長椅子やテレビ、テーブル、椅子、空気清浄器やキーボード等が置いてある。切り絵や書道の作品、季節の飾り物(ハロウィン)等が飾ってあり、いつも行事や作品作成等をしている様子がうかがえる。トイレや洗面所も各ユニット2か所ずつ設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、入所者同士、会話を楽しんだり、歌や動物番組の録画を鑑賞したりして楽しんでいる。体調管理のため、個室で過ごされる方もおり、個別に対応している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安心してゆっくり過ごせるようにしている。入所者の慣れ親しんだテレビやテーブル、ミニ仏壇などが置かれ、落ち着き安心して生活できるようにしている。整理整頓はスタッフやご家族と共に行っている。	介護用ベッド、カーテン、エアコン、クローゼット、電灯が備え付けられている。必要に応じて車いすやポータブルトイレを使用している利用者もいる。利用者の馴染みのある家族写真やぬいぐるみ、造花や色紙の工作作品、クッション、テレビ等を持ち込んでいる利用者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前とスタンドグラスが設置され、自分の部屋と分かるように工夫している。ラジオ体操、北九体操など、体を動かすことを毎日の生活に取り入れている。個別にはルームマーチなど機能維持にも取り組んでいる。		